

研究所年報 巻頭の言葉

2005年10月に富山県内国立3大学が統合した新・富山大学の中で、「和漢医薬学総合研究所」として再出発して、早3年が経過いたしました。本研究所は、教員数が30名弱というコンパクトな研究所でありながら、特色ある和漢医薬学研究を展開しております。

さて、2008年7月に学校教育法施行規則が改正され、文部科学大臣が、高いポテンシャルを有する研究施設を共同利用・共同研究拠点として認定する新たな制度が行われつつあります。これに対応して、富山大学では、当該研究所を共同研究拠点とするべく申請準備を鋭意進めております。当研究所が拠点に認定された暁には、共同利用・共同研究を通じて全国の関連研究者および研究者コミュニティと緊密な連携を推進し、和漢医薬学の発展のために全所員一丸となって尽力する所存であります。

また、附設の民族薬物資料館は日本漢方、中国医学、アーユルヴェーダ(インド医学)、ユナニー(アラビア医学)、タイ医学、ネパール医学、インドネシア医学などで用いられている生薬標本(現収蔵数約3万点)の蒐集に努めるとともに、そのデータベース化を精力的に推進し、学術情報を収載した日本語版(約430種類4800標本)と英語版(約230種類3,800標本)のデータベース(民族薬物データベース、中国薬草古典「証類本草」データベース)をインターネットで公開して、日本及び世界の伝統医薬学の研究者、研究機関に学術情報を発信しております。大学からの重点的な支援を受け研究拠点化に向けて、2009年から民族薬物資料館の増改築を行い、共同利用実験室の設置、収蔵品利用規程の改正など、研究環境のさらなる整備を行う予定であります。

今後とも皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年1月

和漢医薬学総合研究所 所長 済木育夫